

令和2年度 中央区立日本橋小学校 外部評価報告書

外部評価委員：岩上 佳夫 浅野 真由美 今江 嘉利 野崎 剛 落合 由香里
福岡 恵 東 純生 竹田津敬子 木通 清美（敬称略）

報告書作成者：株本 光子

評価時期 令和2年3月

1 重点目標の評価

重点目標1 「決まりを守り、礼儀正しく思いやりのある子どもを育てる。」について

教員の設問「自分から進んで挨拶する。」「毎朝遅れず登校する」「思いやりのある、温かな言葉がけが溢れている」で肯定的評価は、教員 58%、児童 85%、保護者 70%である。この数値の違いをまず、教員が認識し、協働して分析し、自分たちの1年間の取組のどこに原因があるか明らかにする。また、教員として時間を大切にしていたか。挨拶は自分から進んでしたかなどの点からも分析する。問題点があれば、組織運営上どこに原因があるかを突き詰める。そこから 効果のある改善策は生まれる。

重点目標2 「自分の考えをもち、主体的に学び続ける子供を育てる。」について

第1項目で肯定的評価をした教員は約 100%、保護者 74%、児童（設問が異なる）81%である。教員 100%の内訳では、1名が「十分達成」、残りが「達成」である。教員の回答と、児童・保護者の数値が開いているのはなぜかを一人一人が考える。数値が伝えるものを教員が協働で分析するのが、学校評価に求められる自己評価である。評価指標とは、教員が1年間取り組んだ結果を予想した姿である。そのための教師の1年間の取組みが評価項目である。ここには、「自分の考えをもち」「相手の考えを受け入れる」「自分の考えを深め、広げる」「家庭学習に取り組む」とある。これでは、様々な教職経験の教師が同じ考えで取り組むことは困難である。「児童が自分の考えをもち」ために、日本橋小学校の全教員が何をするかを評価項目に具体的に記す必要がある。この評価項目では、教員が何をしてよいかわかったか、分からなかったかも明らかにする。自己評価とは、教員の協働によって様々な視点から見直しを図り改善を導き出すものである。

重点目標3 「明るく、心身ともに健康な子供を育てる。」について

第1項目の肯定的評価は、教師約 73%、保護者 87%、児童 89%である。数値が近く、児童にも成果がみられたと判断したい。しかし内訳をみると、教師の3名が改善を要する。十分に達成したが1名となっている。なぜ、十分達成したと言えなかったかその原因は何か次年度は、どのように取組を変えるのかを、すべての教員が保護者や地域に説明したり、自分が実践したりできるようにする。

2 今後の改善に向けた意見

- 学校評価は、アンケートを集計して終わりとするものではない。教員の自己評価を中心に、保護者・児童の評価を参考にしながら数値の違いを比べたり、数値の意味するところを読み取ったりしながら成果と課題の原因を明らかにし、次年度の教育活動を前進させるための取組を具体的に見出すためにある。次年度の学校評価にぜひ生かしていただきたい。
- 保護者の回収率は、学校教育に関心をもち、共に児童を教育する姿勢の表れである。回収率 100%を目指す努力と工夫をしていただきたい。

3 その他の意見

- 「全体の評価」の児童の設問4「先生に学校や家での出来事などを話したり相談したりしている。」と回答した児童が 50%、保護者設問9「学校は児童の問題や悩みに対し、適切に相談にのったり指導したりしている」と回答した保護者が約 75%である。「いじめなどの心の問題を相談できる先生がいる。」と、全児童と保護者が思える環境づくりを早急に行うこと。次年度の1学期末等の中間学校評価等でよくなったと児童・保護者が実感できるようにしていただきたい。
- 外部評議員の方々が、学校のことを心にかけている。落ち着かない児童や学級があれば、それが解決できる具体的な方策を学校に示してほしいと強く願っている。「頑張っ て取り組みます」「一生懸命やります」「今後考えます」ではなく、全教員が具体的にすることを保護者にも地域にもわかるように示してほしいと強く願っている。